らしんばん
RASHINBAN

No.654
2015年9月25日

ボーイスカウト東京目黒１団機関誌
発 行: 高 根 博 信
東京都目黒区中央町2-37-8 TEL 03-5704-4047
http://www.bs-meguro1.com/

# 2015年の夏も終わりました！

## 今年も盛りだくさん、素敵な夏でしたね

2015年の夏は、例年通りの各隊キャンプに加えわが国で2回目の「世界スカウトジャンボリー」が開催されました。

そこに我が団からもスカウトを派遣したり、海外からやってきたスカウトをホームステイでおもてなしするなど、いつもの夏以上に多彩な行事で忙しくも楽しい充実した夏となったようです。

## 「団委員長メッセージ」 高根 博信

ウキウキが止まらなかった 2015 年夏！

第 23 回 WJ は 7 月 28 日から 8 月 8 日まで 12 日間山口県のキラら浜で開催、8 月 9 日にはポーランドのスカウト及びリーダーも東京入り、東京駅で各ホームステイファミリーと合流、10 日は祐遊広場で Welcome Party 翌日はポーランド在日大使館でお別れパーティー！休む間もなく 13 日頃から各隊の夏の舎営や野営が始まりました。

最後にベンチャー隊が佐渡から東京へ戻ってきたのが 8 月 20 日でした。この短い間でたくさんの方と出会い、多くの事を経験し学ぶ事ができました。

さて・・この経験した事学んだ事をどうやって次に繋げていきましょう？

ボーイスカウトは皆さんの熱い志と目的意識があればそれを現実に叶えてくれるいくつものプログラムを用意しています。是非心の向く未来へ、ウキウキする気持を大切に！これからもボーイスカウト活動を楽しんでください。

私もスカウトに負けない様に楽しみます。

気がつけばもう秋の気配・・
ちょっと淋しい！と思っているのは私だけかなぁ？

# Welcome！ Poland Scouts

## ホームステイ in 目黒1団

今回の世界ジャンボリーには、3 万人を超えるスカウト達が参加しました。そし約 8000 名のスカウト達がホームステイに 日本全国各地を訪れました。

今回山手地区では、目黒区にポーランド大使館があることから、ポーランドからのスカウト受け入れを希望しました。

当団ではユニットリーダー2 名とスカウト 6 名の合計 8 名、成沢・小松・ワーグナーのスカウトファミリーと田邊副団委員長が2名づつ受け入れをおこないました。

2 泊 3 日と短い滞在でしたが、日本の文化や生活を体験してもらい受け入れたスカウトの皆さんは楽しい思い出を持ち帰ってくれたことでしょう。

田邊副団委員長の家でのホームステイ

# Welcome Party

8 月 10 日、目黒 1 団としてホームステイ受け入れをしているポーランドからの 8 名を迎えて団としての「ウェルカムパーティ」を祐天寺・祐遊広場にて行いました。

連日の猛暑続きでしたがこの日は夕刻から比較的過ごしやすくなりました。

ローバーが中心となりリーダーや保護者の支援で準備が進み、平日の夜でしたが、BV・CSスカウトや保護者の方も大勢集まりにぎやかな会となりました。

パーティーは自己紹介やプレゼントの交換をおこなった後お互いにゲームの紹介をおこない盛り上がりました。

その後は食事会。スカウトのパーティーらしく野外でバーベキュー。肉類や焼きそば、飲み物、デザートなどおいしく頂きました。最後には花火大会で締めくくり、短い時間でしたが素敵な交流ができました。

ポーランドは2023年の世界ジャンボリー開催地に立候補しているそうです。実現すれば8年後にポーランドで世界ジャンボリーが開催されます。現在のCSたちは行く機会があるかも…ポーランドで再会できるといいですね！

記念品の交換・2023年の世界ジャンボリーに立候補しているポーランドの招致ワッペン　　8年後が楽しみ！！

ゲームや花火で楽しい時間を過ごしました

女子スカウトには着物を体験してもらいました

# ホームステイを受け入れて

ワーグナー千晴　VS隊保護者・団委員

当家では17歳のスカウト2人を預かりました、ホームステイを受け入れるのは初めてのことで、実はすこしドキドキ。

東京駅へお迎えに行って我が家に滞在する2人をのせた車が到着し、緊張した面持ちで出てきたセバリン君とアドリアン君、私の方は二人とも背が高くてびっくり。多分190cm 位あり部屋が益々小さく感じました。英語がまずまず話せて、ホット。二人は同じ学校に通っているとのことで、わからないことばは助けあってやりくりしながら、話してくれました。

日本の事は随分学んできたようで、日本についての質問はありませんでしたが、東京の住宅街を見たいと言うので、近所を一回り、建込んだ住宅地、お寺、狭い道を通る車やタクシーをよけたりしながら散歩、マンションのバルコニーからも、住宅街の景色をみていました。自分達の住む町ではやはり家と家の間にスペースがあると教えてくれました。息子が帰宅するのを待って、皆で食事。2週間の暑い所でのキャンプの疲れもみせず、スカウト達はタフだなと実感。ベッドにうまく収まるか心配したものの、二人は大丈夫と私を安心させ一日目無事終了。

2日目は小松家の滞在中のスカウト達と合流し出かけることに。我が家の朝食はベーコン、たまごトーストなどで身体の大きさのわりには少食かな？

2日目の行き先は TOKYO タワーと秋葉原。小松スカウトのグループと合流し、食事以外はスカウト達に任せて付き添い。TOKYO タワーでは徒歩のチケットを独断で購入。階段だよというと「ええ」との声が上がるがさすがスカウト達はサクサクと600段を登り、展望台からの景色と、透明になった床で写真を撮影、家族に送信して盛り上った様子。帰りはエレベーターを降りたところで早速アイスクリームやスウィートを買うスカウト達、ティーンエージャーの好みは万国共通。一階のいわゆるお土産やさんでは思ったよりはまり、皆かなり時間をかけて買い物、小松スカウトもワーグナースカウトも旅行者気分でお土産を購入。

随分時間を使い、次の目的秋葉原へ。駅前の大型量販店でオーディオアクセサリーや、フィギュアを見たいと、広いフロアーにもかかわらず、それぞれが好きに見てまわりそれでも適当な頃なんとなく近くに集まって移動するので楽な付き添いでした。一度だけアレックス君を残して別の階に移動し、慌てて小松スカウトがレスキューに向かう場面もありましたが、直ぐ発見。　昼も食べずに回ったので、近くの寿司屋に移動。日本での寿司屋は初体験。恐々頼んだ様子でしたが最後は完食。ガリはちょっと苦手したが、日本茶はおかわり。お店からサービスに寿司キャンディをもらい、皆大喜び。お互いの寿司を比べてスマフォ写真撮影。

夜のパーティーに間に合うためには時間はあとわずか、念願のゲームセンターを近くに見つけ速攻開始。ゲームはインターナショナルであることを痛感。かくして、駆け足の自由行動一日が終了。パーティー開始時間に丁度間に合いました。

我が家に滞在したセバリン君とアドリアン君はコンピューター関連の仕事につきたいそうで、口数は多くありませんでしたが、素直でとても好感の持てる若者達でした。最初は遠慮のせいかあまり口にしていなかった、カキノタネや、プリッツのお菓子も最後は気に入って在庫はプレゼント。

最後は二人ともそろそろ家に帰りたい様子。自国では無いような暑い場所でのキャンプや生活でも、日本の風習普通の家庭生活をすこしでも知ってもらえたかな？日本で将来仕事がしたいと言ってもらえたのは嬉しかったです。ポーランドで8年後にワールドジャンボリーが開催されることを心より応援します。和が繋がって、今回訪問してくれたスカウト達が、リーダーやサポートとして関わるところへ目黒一団からスカウト達を送り出せたら良いですね。

## 各隊活動報告＆活動予定

| | 15年8月の活動 | | 15年9月の予定 | |
|---|---|---|---|---|
| BV | 1日 | ｻﾏｰｽｸｰﾙ下見 | 6日 | ｻﾏｰｽｸｰﾙ報告 |
| | 10日 | ホームステイイベント | 27日 | スカウトの日 |
| | 15～17日 | サマースクール | | |
| CS | 13～16日 | 夏季舎営<br>忍たま学園最終章 | 13日 | 山手地区CS度合同集会 |
| | 30日 | 舎営報告会 | 27日 | スカウトの日 |
| BS | 10日 | ホームステイイベント | 27日 | スカウトの日 |
| | 13～16日 | 夏季野営 | | |
| | 17日 | 資材整理 | | |
| VS | 10日 | ホームステイイベント | 10日 | 定例会 |
| | 11日 | 資材整理 | | |
| | 15～20日 | 移動野営 | | |
| | 22日 | 資材整理 | | |
| | 24日 | 移動野営反省会 | | |
| RS | | 各隊奉仕 | | 各隊奉仕 |

# ビ～バ～ サマ～スク～ル

ビーバー隊は8月15～17日の日程で2泊3日の『サマースクール in　西湖』をおこないました。参加者は••スカウト…11名、リーダー… 6名、家族…3名でした。

サマースクールの報告会では、皆「楽しかった」と報告していました。保護者の方からも「サマースクールから成長が感じられる」と嬉しいお話しを伺うことができました。

**1日目　(8月15日•土曜日)**

当初の予定より朝早めに出発、渋滞に巻き込まれる事もなく、早めに到着しました。

近所を散策、宿に帰ってから心に残ったことを絵に書きました。グラウンドでサッカーの様子•山の木々•頭だけのクワガタ•死んだヘビにむらがる虫達～中には、心地良かった風を書いたスカウトもいました。

作品をボードに貼り出し展示～これが帰りには、素敵な記念品に変わって行くのです。

スイカ割りのあと、工作の材料の小枝拾いに出かけました。

お夕飯のあと、夜プロを用意していたものの、皆かなり眠たそうにしていたので、就寝準備をしてからの紙芝居、消灯後は、さほど騒ぐ事もなく眠りについていました。

**2日目　(8月16日•日曜日)**

西湖まで朝の散歩に出かけ、田邉副団委員長から朝のお話しを伺いました。キムスゲームのように集中「人のお話しにも集中して良く聞きましょう。」この日1日は意識して活動に取り組みました。

午前中は、記念ボードの製作、拾ってきた小枝でボードをかざり昨日書いた思い出の絵を貼りました。

ミニハイクで、青木ヶ原樹海の散策、西湖を見ながら、富士五湖について学びました。休憩で食べたソフトクリームの味は、格別でした。

午後は、西湖での水浴です。水鉄砲やビーチボールで楽しく過ごしました。

お風呂のあとは、ゆったりと紙芝居、今日は、スカウトが代わる代わる上手に読んでくれました。

夕飯は、お庭でバーベキューそしてお待ちかねの花火大会線香花火大会には、真剣に取り組んでいました。

**3日目　(8月17日•月曜日)**

朝から雨模様、部屋で朝ゲーム『叩いて　守って　ジャンケンポン』なかなかイイ戦いを繰りろげました。田邉副団委員長のお話しでは、BP の写真を見ながら『人の役に立ちましょう』

そして、お世話になった宿に感謝をこめて、お掃除をしました。靴までキレイに拭いてくれて、ビックリしました。

宿に感謝を込めて、記念のボード製作『ありがとうございました』の 11 文字を 11 人で一文字ずつ書きました。

帰り支度を済ませて昼食です。西湖は、ほうとうが名物、自分達で野菜を切り、粉を練って、美味しいほうとうをいただきました。

バスのお迎えが来て、西湖ともお別れです。最後に、お宿の方にお礼を申し上げて、感謝の品を渡しました。

無事、祐天寺到着全員が小枝章を受章し、立派にサマースクールを締めくくりました。

# カブ舎営 忍たま学園最終章 後継者選抜合戦

**夏期舎営について**

カブ隊では、8月13日から16日の3泊4日で、埼玉県入間郡の民宿「啓明荘」にて今年度の夏期舎営を行いました。この1年間、隊長がかつて修行を積んでいた忍たま学園の学園長から忍者としての才を見込まれたスカウトたちは忍者修行を重ねてきました。今回はその最終章、1年間の集大成として、忍たま学園の後継者となる意志を持ったスカウトが、学園長がかつて修行を重ねたゆかりの地でさまざまな修行に取り組みました。

舎営初日、舎営地に到着です。期待や不安、それぞれ違った気持ちを抱えていたことかと思います。まずは来たる4日間の生活に向け、舎営地の周辺散策や、ともに修行を行う組の名前やルールを決めました。そして、それを形にすべく表札を作成しました。満足のいくものを創り上げたいという思いから悪戦苦闘しているところも見られましたが、結果的に良いものが出来上がりました。その日の夜は、翌日から始まる本格的な修行に向け、誓いの儀を行います。ここでは、学園長からの手紙が届いていました。後継者となるものは、「心」、「技」のともに優れているものを選び、忍たま学園での最高位の称号、「黄龍」を与える、という内容です。その後、すべてのスカウトが後継者を決めるための今後の修行に対する意気込みを隊長に向かって伝え、誓いをたてることによって、忍術修行の最終章に参加するための証であるネッカチーフを受け取りました。

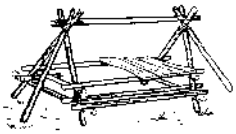
2日目の日中は、忍術実践の修行として、さまざまなプログラムを行いました。カブ隊の舎営伝統のゲームも登場し、スカウトはチームワークや個人の力を発揮します。終始盛り上がりを見せていました。また、夜に行ったのは「忍びの陣」。暗い中、敵に見つからないように移動し、光る宝を持ち帰るというものです。続く3日目は、恒例の早駆(マラソン)に始まり、日中は修行の地である舎営地周辺の山を探検すべく、ハイキングを行いました。スカウトは山道をものともせず、元気に進んでいました。最後の夜となる3日目の夜は、楽しい夜会です。宿舎のすぐ近くで夏キャンプを行っているボーイ隊と合同でバーベキューや花火大会を行いました。

最終日を迎えると、いよいよ最後の儀式を行います。後継者、そして称号を得るスカウトが発表されました。この後、すべての忍術修行を終了すると宣言され、1年間におよぶ忍たま学園での修行は幕を閉じました。

その後、無事に全員が東京に帰ってきましたが、カブ隊の舎営はまだまだ終わりません！舎営報告会も忘れてはいけない大事な行事です。8月30日に舎営報告会を行いました。はじめに組集会を行い、組ごとに発表するための準備をし、その後保護者の方々に向けて発表をしました。特にうさぎスカウトは慣れない中でしたが、一生懸命舎営の思い出を伝えようとしていました。

今回のカブ隊の舎営も、特に大きな事故やトラブルなく無事に終了することができました。参加したスカウトも、1人1人がそれぞれ成長していったのではないかと思います。

# ボーイ隊・夏期野営 ENJOY



ボーイ隊は 8 月 13 日から 16 日にかけて 3 泊 4 日の日程で、埼玉県入間郡の啓明荘さんの敷地をお借りして夏季野営を行いました。同民宿で、カブ隊も同じ日程で舎営を行っており、二つの隊が同じ場所に同じ日程で夏季行事を行うことになりました。

今年は、日本の山口県きらら浜で世界スカウトジャンボリーが開催されて、例年よりも参加者の少ない野営だったため、昨年とは形を変えて、食事を合炊にしました。そのため普段よりもスカウトとリーダーの距離が近い野営期間中の生活となりました。

初日は、少ない人数で期間中生活するためのキャンプサイトの設営と、そこで使う道具を竹と紐で自作する美化工作を行いました。本来は年上のスカウトが年下のスカウトを指導しますが、今回はリーダーが代わりに指導を行い、手伝いながらの設営となりました。夜には、食事を終えた後にたき火を囲んで夜話を行いました。参加者が一人ずつ全員に質問し、その質問に全員が答え終わった後に自分の答えを言うという形で、普段は中々聞けない食べ物や音楽の好みなどをお互いに知ることができました。思いもよらない趣味の一致などが見つかることもあるため、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思います。

二日目は、人数が少ないため進捗が遅れていたサイト整備と美化工作をリーダーとスカウトが一緒になって行いました。慣れないながらも 2 年のスカウトが 1 年のスカウトに指示してなんとかビニールシートの屋根を完成させ、その日の夕立に間一髪間に合うことができました。午後の総合訓練では、竹と紐、コンパネを使い、期間中使い続けることになる机の作成を行いました。

三日目にはハイキングを行い、キャンプサイトの近くにある顔振峠まで歩き、さらにそこから下山して町の駅を目指すというコースで、山道であったため勾配も多く、日が高くなって気温も上がり、短めのコースながらハードな道程となりました。

その日の夕食には一緒に来ていたカブ隊が泊まっていた啓明荘さんの敷地で、一緒にバーベキューをさせていただきました。リーダーやデンリーダーも一緒になって肉や野菜、焼きそばを作っていく中、スカウトたちが旺盛な食欲で次々と平らげてしまい、終わりまでリーダーたちは動き通しになってしまいましたが、最終日の良い思い出になっていたら苦労の甲斐もあったかと思います。夜にはカブ隊と一緒に花火を行った後、キャンプサイトに散らばったトランプを探してお菓子やリーダー放出品と引き換える宝探しを行いました。

最終日、慌ただしく撤営を終えて東京までバスで戻るころには、ぐったりとしたスカウトたちがシートで爆睡をしておりましたが、次は今回のほぼ倍の日程で食事も自分たちだけで作るキャンプをすることになり、プログラムも充実します。これからの集会でより体力と技能をつけていき、次も元気に頑張ってくれるたくましいスカウトの育成に努めたいと思います。

スカウトに今回のキャンプで特に印象に残った、楽しかったプログラムを一つ上げてもらいました。

**ワシ班　多田スカウト**

僕が今回のキャンプで特に楽しかったことは、美化工作です。なぜなら昨年はシュロ縄を引っ張りすぎて 10 回以上切ってしまいましたが、今年は 2 回しかちぎらなかったからです。来年からはもっと上を目指していきたいです。

**ワシ班　竹内スカウト**

僕が今回のキャンプで特に印象に残ったのがハイキングです。とにかく長い間歩き続けたので、ゴールの吾野駅につく時にはへとへとになってしまいました。来年はもっとしっかり班長についていけるようにしたいです。

# ベンチャー・移動野営

# SUMMER CAMP 2015 IN SADOGASIMA

ベンチャー隊は、数年間積み上げてきたボーイスカウトとしてのスキル＆メンタルを発揮し更なる向上を目指す。「想定外のことが起こる」事を予想し、準備する、そして「何ものにも代え難い」達成感を味わう･･･ことを目的に8月15日から20日の日程で佐渡島一周を目指す移動キャンプをおこないました。

参加スカウトは4名、2名が全行程、2名が前後半の入れ替えとなりました。

8月15日、先発隊はスカウト 3 名、と隊長の4名は両津港から佐渡島に上陸、バスでスタート地点鷲崎へ。初日は歩行約4キロで20時頃二ツ亀キャンプ場に到着。涼しく蚊もいません。空には天の川や流れ星が見られました。

8月16日二ツ亀キャンプ場から歩行約26キロ）入崎キャンプ場まで、ヘトヘトです。約一名、家に帰りたいと言ってます。疲れてゴールしたものの予定より一時間早く到着出来たので水シャワーに入り、サッパリしゆっくり出来ました。夜話盛り上がりました

8月17日、入崎キャンプ場から徒歩32キロ、窪田キャンプ場まで今回一番長い行程です。しかも雨！！この日は後発組も合流するため、夕食は今までとは違い、新鮮なものを頂きます。スカウト達は近所のスーパーに買い出しに。スカウト1名と副長2名が合流し、夕飯はシャブシャブ。外は雨が本降り。

8月18日、窪田キャンプ場から徒歩24キロ素浜キャンプ場まで。
隊長とスカウト1名がここから帰り、スカウト3名、副長2名の体制です。朝虹が出て今日の行程を祝福しているようでした…この後、雲が直撃して一時的に豪雨に遭遇したのはご愛嬌です。少し早めに着けたので、前半の疲れを癒しました。

8月19日、素浜キャンプ場から歩行約23キロ、最後の野営地松ヶ崎キャンプ場までです。松ヶ崎は本土を望む灯台の足下です。さすがにみんなお疲れ気味。

8月20日、いよいよ最後、本行寺前からバスで両津港へ移動し一周完了です！

**移動舎営の感想　　山辺スカウト**

前回体調不良で移動野営に行けなかった私にとっては、初めての移動野営でした。今年も体調不良で途中参加となってはしまいましたが、参加することが出来てとてもうれしく思いました。

私が出発した日は東京も佐渡もあいにくの雨でした。初日からの雨に少し気分も下がってしまいましたが、全日程参加したスカウトの話を聞くと、雨が降った次の日から気温が下がり過ごしやすくなったそうなのでこのときの雨には感謝しています。

次の日の朝には雨も上がり、空には大きな虹がかかっていました。とてもきれいで、まるで私たちの出発を応援してくれているようでした。歩いているときは海沿いや山、街中などいろいろな場所を通りました。途中は疲れも出てきて景色を見る余裕がなくなったりもしましたが、自然豊かで古い街並みも残る佐渡島は歩いていてとても楽しかったです。地元の人が“頑張って”と声をかけてくれたのもとても励みになりました。

とても大変でしたが、最後まで歩き切ったという経験が、これからの自信につながると思います。

**移動野営の感想　小松スカウト**

このたび、わたしは夏季移動野営で佐渡島に行かせてもらいました。

ベンチャー隊での初めての長期間野営で、しかも移動キャンプなどやったこともありませんでした。そのためどのくらい大変なのか行く前のわたしは知りませんでした。

まず移動キャンプをするにあたって大変だと感じたのは荷物です。移動するので当然炊具はもちろんテントも毎回もっていかなければなりません。それに加えて普通の装備もあるためなかなかの重さです。またその荷物を抱えたままで長距離歩くため疲れがどのぐらいでるのか、それも想像がつきませんでした。そんな中当日を迎え佐渡へ出発しました。佐渡へはフェリーで行くのですが、フェリーに乗るのは今回が初めてでとても楽しかったです。しかし、その次の日歩き始めの1日目、気温はかなり高く日差しも強かったため、満タンだった体力も水筒も底をついてしまいました。1日目が一番つらかったといっていいと思います。そのくらい心身ともに疲れ果てました。

2日目以降は雨が降ったのもあり、比較的過ごしやすい気候になりました。しかし、初日に受けた腰や肩の部位の痛みが消えなかったため、肉体的に疲れがあらわれました。その疲れが精神にも作用しよりつらい移動となりました。

しかしつらいだけでの日々ではありませんでした。佐渡の景色はとてもきれいだったし、キャンプ場の気候は涼しく、寝るときは快適でした。また、夜空には満天の星空が広がり、天の川や流れ星などを見ることができました。これらは東京ではなかなか経験できないことだと思いました。

また今回は完歩することかなわなかったので次回は歩き切りたいと思います。

**移動野営の感想　柴田スカウト**

今年も夏恒例の移動野営に行きました。今年は新潟県の佐渡島です。去年よりも準備をスタートさせるのが遅く、完了させることも前日に行きのバスをしているような状態でしたが、何とか行って帰ってくることが出来ました。

自分は計画時に障害、ルート策定を担当していました。その時課題になっていたのが交通費が高額になってしまう事でした。できるだけ安くなるように交通経路を考えていたのですが、なかなか安くならず、大変でした。この時、自分は学校行事のため、日本を離れていました。そのため代わりに小松スカウトが新たな経路を作ってくれました。ありがとうございます！！

結局、全て完了したのが、出発前日の午後でした。もっと余裕を持ってやるべきでした。

出発当日、予約していた高速バスに乗れ、計画通りの船、島内のバスに乗れました。無事に設営が終わり、夕食を食べ終え、ほっとしながら星空を眺めていました。都会では見れないだろう天の川を見てとても感激しました。これだけは田舎が本当にうらやましいです。

2 日目から 5 日目まで島の西半分を歩きました。歩き始めたその日はみんな体力も満タンで、ペースよく歩ききることが出来ました。しかし、次の日からは違いました。初日の時点で足にマメが出来ている人がいました。

2日目は雨が降ったりやんだりの中の移動でした。途中、限界を感じた隊長がバス停の前で止まってしまい、そのままバスに乗りました。実際に自分も限界を過ぎていました。この日に途中参加組が合流し、どんな道を歩いてきたか説明してあげました。

歩き 3•4 日目からは 2 日目に会った我孫子の団のノウハウを使って、バスを使って移動することにしました。バスを使ってもかなり歩きましたが、無事ゴールし、帰宅することが出来ました。

去年とは全く違う路面条件でしたが、歩いた距離が長かったのでかなり大変でした。次回は転車を使った移動野営にチャレンジしてみたいです

# 第23回　世界スカウトジャンボリー
## WORLD SCOUT JAMBOREE

7 月 28 日（火）から 8 月 8 日（土）までの 12 日間、4 年に一度世界中のスカウトが一同に集まるボーイスカウト最大の行事、「**第 23 回世界ジャンボリー**」が、山口県山口市阿知須にて開催されました。日本では 1971 年以来、44 年ぶり 2 度目の開催となり、世界 162 の国と地域から約 3 万人の参加者が集まりました。

目黒 1 団からは、ボーイ隊の成沢スカウト、ベンチャー隊のワグナースカウト•山中スカウト•小松スカウト•山辺スカウトの計5名が、またカブ隊副長の飯島君がIST（国際サービスチーム）スタッフとして参加しました。

当団スカウトは東京0304隊として参加しジャンボリーの空気を満喫していた様子です。世界ジャンボリーは、ボーイスカウト最大の祭典であり、スカウトならば誰しも一度は参加してみたい一大イベントです。参加できたスカウト達は、様々なアクティビティに参加し視野を広げ、国際交流の楽しさを感じ、この貴重な機会に様々な体験を重ねたことでしょう。

## 世界ジャンボリー参加スカウトの感想

**BS隊•成沢スカウト**

私はこの夏、山口県で開催された第二十三回世界ジャンボリーに行ってきました。今大会では、百六十一の国と地域が参加し、計三万人のスカウト達が国際交流を行いました。私達山手地区がついた時、開催地であるきらら浜には、数えきれないほどのテントが並び、色とりどりの国旗が掲げられ、多くの言語が飛び交っていました。私達のサイトの周りは、イギリスやエジプトやスペイン、ブラジル等多くの国に囲まれ賑やかで楽しい二週間を過ごしました。

ある日の帰り道。スペインの方と同じバスに乗る機会がありました。最初は目の前にいる外国人に緊張して上手く会話できませんでした。でも、ある女の子と音楽について話をしました。自分の好きな音楽、好きな歌手。すると、口にはってあったテープがはがれ、自然と会話が弾んできました。彼女は、私の大好きな歌を歌い始めました。私は、嬉しくて彼女と一緒に笑顔で歌いました。私ははっとして、耳を澄まして聞き、気付いたのです。バスに乗っている全員が、一緒に歌っている事に。私は、一曲の歌で国の違う人達が一つになれる事に驚き感動しました。その跡も、お互いの国の歌や、有名な曲をみんなで歌いました。

そして、八月七日。切ない切ない閉会式の日がやってきました。私達は、三万人の仲間と同じ思いで会場に向かいました。沢山の国が大きな自国の旗を持って続々と入場してきました。三万人が集まり、山口県きらら浜を照らす夕日を浴びた特、閉会式が始まりました。閉会式では、第二十四回世界ジャンボリーの開催地であるアメリカが発表され、皆の心が期待と喜びで満たされました。最後に今大会のテーマ曲である、A Spirit Of Unity が会場に流れました。すると、三万人の仲間が歌いだしました。私は、たとえ国や言語、文化が違くても、音楽が人と人とをつないでくれる事を知り、実感しました。星いっぱいの夜空の下で三万人の仲間と歌ったあの瞬間は、忘れられない思い出です。

### VS隊・山辺スカウト

私は前回きらら浜で行われた第16回日本ジャンボリーに参加したのできらら浜に行くのは2回目でした。会場入りした時は、日本ジャンボリーの時の懐かしさも感じつつ、その時とは全く違う景色が目の前に広がり“これが世界ジャンボリーなのだ”という驚きと興奮そして少しの不安を心に抱きました。

しかし、いざ本番が始まると海外のスカウトとのコミュニケーションには苦戦しましたがとても楽しく2週間はあっという間に終わってしまいました。

さらに、私は今回、隊付という役割で参加させていただきました。周りを見て動いたり、付き添いとしてプログラムに参加したりと大変な役割ではありましたが、リーダーに1歩近い状況で行動することはとても勉強になりました。

普段の1団の活動から1歩外に出て、山手地区のスカウトや海外のスカウトと活動することでお互いの習慣の違いを受け入れ、良いところを吸収し、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。学んだことを積極的に伝えていきたいです。

世界ジャンボリーは私にとって初めての経験ばかりで戸惑うこともありましたが、ひとつ、ひとつ乗り越えることで少しずつ成長することが出来たと思います。また、世界ジャンボリーで得られたものは、これからのスカウト活動だけでなく様々なところで役立つと思います。

スカウトとして行けるジャンボリーは今回が最後ですが、リーダーになってもまた参加したいです。

### VS隊・山中スカウト

私は、23回世界スカウトジャンボリーでとても価値のある良い経験がたくさんできました。

2週間で経験した事で特に印象に残っているのは、やはり、多くの海外のスカウトやリーダーの方々と毎日交流が出来たことです。海外のスカウトとは、プログラムで一緒に活動したり、空いている時間でワッペンなどを交換するなどの交流する機会がたくさんありました。最初の頃は英語に苦手意識があり、話し合い等でもほとんど喋る事が出来ませんでした。ですが、毎日英語を聞いたり話していたので、少しですが会話も成り立つようになりました。ジャンボリーの終盤で、海外のリーダーとプログラムの中で2人で灯籠を作ることがあったのですが、その時には会話をする事が出来たのでとても嬉しかったです。上手く伝えられない時でも、意味を酌みとってくれたので伝えようとすることが大切なんだと知ることができました。

また、サイトでの毎日の生活も大変であったり、楽しかったりと印象に残っています。まず、ジャンボリー期間中に一度も雨に降られなかったので、暑かったけれど活動しやすくて、とてもよかったです。

次に、当番班になった時は起床時間が早く大変でしたが、食事の準備など様々なことを班長を中心として協力して活動が出来てとても楽しかったです。

最後に色々な人たちと出会って、絆を深めることができたので、今回のジャンボリーにスカウトとして、参加する事ができて本当によかったです。

### VS隊・小松スカウト

今回、わたしは第23回世界ジャンボリーに参加させていただきました。わたしはジャンボリーに参加するのは初めてでした。そのため何も想像がつかず、とても不安な気持ちでいました。その一方で世界中のスカウトと交流ができるため、とても楽しみな気持ちでもいました。

わたしは東京の山手地区の一員として世界ジャンボリーにのぞみました。班はハチ公αという名前で班のみんなはとても仲の良い素晴らしい班でした。

世界ジャンボリーが開催されてまず驚いたのはその人数です。会場全体にスカウトがあふれていてついに来たのだと実感しました。今回は12泊13日ととても長い期間行われました。その中でも特に印象に残っていることを3つ挙げたいと思います。

一つ目は各国との交流です。この13日間、いたるところに行き、スカウトたちと交流することができました。ある人とは記念に写真を撮り、ある人とは持ち物を交換したり、ある人とは一緒に歌ったり踊ったりしました。どれもこれも普段の生活では経験できない貴重な体験でした。2つ目はわたしの誕生日です。8月2日その日は私の誕生日でした。隊のみんなに祝ってもらいそれだけでもうれしかったのですが、世界のスカウトからも誕生日の祝いの言葉をもらいました。中にはその国の言葉でハッピーバースデイの歌まで歌ってくれたところもありました。とても幸せな誕生日でした。その日はさらに大規模なアリーナショーもありました。そこでは有名な歌手やグループが来ていて会場全体で大いに盛り上がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ世界ジャンボリーは終わりました。

最後に会場を支えてくれたスタッフさん、共に過ごした仲間、リーダー、私を送ってくれた団の方々、そして家族のみんな、ありがとうございました。

## 山手地区　ポーランドスカウト送別会

8 月 11 日(火)、山手地区でホームステイ受け入れをしたポーランドのスカウト 40 名の送別会がポーランド大使館で行われました。

ポーランドのスカウトとホストファミリー、および関係者が目黒区三田にある大使館に集合し歌やゲーム、食事で最後の交流を深め別れを惜しみました。

最後は弥栄で締めくくりましたが、お互い記念写真をとりあったりし、なかなか別れがたい様子でした。

ポーランドスカウトはこのあと、東京湾岸でキャンプをして帰国しました。

1団ホームステイスカウトとホストファミリーのみなさん